

ANNUAL REPORT 2022

アニュアル・レポート 2022



イメージキャラクター「とわぶる」

国分寺市障害者基幹相談支援センター

令和4年度(2022年度) 事業報告

◆今年度新たに取組んだこと

①4月より、基幹事業の広報と市内相談支援専門員の業務サポートを目的として、独自ウェブサイトの正式運用を開始しました。

成果 年間の訪問者数 15,425人、ページ閲覧数が 116,006件となり、前年の法人ウェブサイトと比べ、独自のページ閲覧数が前年比の約 25.7 倍になりました。

②市内 6 つの地域包括支援センター全部を初訪問しました。高齢福祉分野が抱える地域課題等の情報を把握し、研修や会議のテーマとして取り上げました。

成果 高齢・障害福祉分野、権利擁護センター、生活福祉課、民間企業、警察等の多機関協働により、高齢の親と障害のある子を支える地域の支援ネットワークを築き上げ、数年にわたる虐待ケースを解決に導きました。

◆次年度に向けて

①相談支援専門員の業務軽減を図るため、ウェブサイトの更なる充実に取り組みます。

②8050問題とともに、障害者の高齢化問題をテーマに取り上げ、地域の支援者全体で学ぶ機会を設けて、支援のネットワークの目を細かくしてまいります。

③広報の一貫として、本誌アニュアルレポートを発刊し、配付します。



Anniversary Report
(令和4(2022)年8月発刊)



行政とのつながり

- ・障害福祉課
- ・生活福祉課
- ・高齢福祉課
- ・健康推進課
- ・地域共生推進課
- ・経済課
- ・子ども家庭支援センター
- ・子どもの発達センター
- ・保健所

市 - 基幹 定例協議(毎月)

緊急把握

緊急度が高まりやすい家庭の把握
29世帯(32名)

緊急入所保護事業

本事業は、市内在住の障害者等を介護している同居の家族が、病気等により家庭で介護ができなくなった場合、事前に他のサービスの利用準備ができていない時に、障害のある方を緊急かつ一時的に施設で保護するものです。

国分寺市障害者地域自立支援協議会

【全体会】(3回)

- 【相談支援部会】(3回)
- ・相談支援事業所連絡会(毎月)
 - ・障害児通所支援事業所連絡会(2回)

【就労支援部会】(3回)

- 【精神保健福祉部会】(4回)
- ・地域移行等支援連絡会(20回)

事務局会議(15回)
ニュースレター発行(年2回)



自立支援協議会ニュースレター
(東京都国分寺市公式ホームページ)

64回



相談支援事業所連絡会(毎月)

相談支援専門員同士の交流、スキルアップ研修、教育との連携、メンタルヘルス等、相談員の負担軽減をはかる。

【相談支援事業所訪問 全12カ所】

相談支援従事者初任者研修、現任者研修は、個別ケースを通しての気づきや地域課題と一緒に検討した。

支給決定基準、消費生活相談、特別支援教育コーディネーターとの交流会

12カ所



権利擁護・虐待防止

12月

支援者向け虐待防止研修
「事例から学ぶ虐待防止
～虐待防止の取組は職員も救う～」



(報告書)

※今年度より、福祉関係者は悉皆研修

会場とオンラインのハイブリッドで実施

オンライン 125名、会場 28名参加

毎年12月に開催し、支援者間に定着してきた

- ・権利擁護関係機関連絡会(3回)
- ・権利擁護センター・自立サポート 連携ケース(4名)

275名

延べ参加者



支援者の人材育成

【ネットワーク研修Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ】
支援者向け虐待防止研修

【相談支援専門員】

- ・新任研修(1回)
- ・ブラッシュアップ研修(2回)
- ・「神経生理学の基礎」(1回)
- ・事例勉強会(3回)

【コンサルテーション】6事業所参加

- ・9ケース(10回)×2H=20時間

計87回



基幹職員の人材育成

- ・研修(27回)
- ・コンサルテーション(6回)
- ・講演会(40回)
- ・連絡会(7回)
- ・説明会(2回)
- ・情報交換会(4回)
- ・実践研究報告会(1回)

「基幹相談支援センター設置10周年事業の振り返りと今後の展開について」

YouTube 動画▶



精神保健福祉分野のネットワークづくり

～精神科病院からの地域移行～

6月

【ネットワーク研修Ⅰ】

「地域支援機関と精神科病院との連携～連携事例を共有し、具体的な取組につなげよう～」



(報告書)

- ・退院支援のためのイメージ動画「グループホームの種類について」を製作し、病院等に配付して視聴いただいた。
- ・近隣市の精神科病院を訪問 3病院(3回)
- ・当事者ヒアリング 2名(1回)



高齢分野のネットワークづくり

～障害・高齢分野との連携～

10月

【ネットワーク研修Ⅱ】

「障害福祉から介護保険へ～調整期間の有効性を考える～」



(報告書)

【国分寺地域包括支援センター訪問 全6ヶ所】

- ・研修打ち合わせ、包括もとまち訪問(2回)
- ・包括職員と相談支援専門員が連携したケースの共有のほか、グループワークを実施した。



児童分野のネットワークづくり

～児童から成人への丁寧な引継ぎ～

2月

【ネットワーク研修Ⅲ】

「福祉職の性支援と多職種連携～今なぜ、学ぶ必要があるのか～」



(報告書)

- ・医療的ケア児支援関係者会議(3回)
- ・つくしんぼ・市・基幹三者打ち合わせ(6回)
- ・児童から成人へ相談支援事業所移行ケース検討
- ・企業との連携

基幹相談支援センターとともに

国分寺市障害者基幹相談支援センターと関係を紡いでくださった方より、メッセージをお寄せいただきました。これからもよろしく願いいたします。

笹渕 真子

東京都教育庁都立学校教育部
学校健康推進課
課長代理（2022年度の肩書き）



基幹の設置10周年おめでとうございます。障害者雇用率制度【事業主に対し、従業員の一定割合（＝法定雇用率）以上の身体・知的障害者の雇用を義務付け（※精神障害者はカウント可）】が1976年の法改正により法的義務となり、以後、何度か改正が行われ、2013年に2.0%、2018年4月に2.2%、2021年3月からは2.3%へと段階的に引き上げられてきました。それに伴い、障がい者の雇用者数は連続で過去最高を更新し、障がい者の多くは、社会にでて働く機会が多くなりました。

私の勤務する特別支援学校でも就労にむけてのさまざまな支援が行われています。しかし、学校は、小学校1年から高校3年生までの12年間、人生のほんの一部にしかなりません。障害の診断を受けてから地域の支えがなくては、子育てもうまくいきません。また、高校卒業後就職してもそれからのほうが長い職業人生が続きます。障がい者が社会にでるためには、自助、共助、公助の適切な組み合わせによる「自立のための社会的支援システムの構築」がとても重要になってきます。万葉の里は地域の中で、さまざまな障害がある方が安心して生活できるよう支援して下さる心強い存在です。これからも、真に必要な支援を提供して下さる基幹を応援していきます。

松村 洋明

医療法人社団根岸病院 常務理事
医療相談室室長



時代とともに、間断なく

基幹相談支援センターをはじめ、国分寺市の関係機関の皆様には日々地域連携にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京都における1年以上の精神科長期入院患者は2011年に11,970人、2019年には10,240人と減少してきていますが、依然として長期入院は精神科医療にとって大きな課題となっています。これからも難治性に経過している患者さまの治療と地域で支えていく仕組みを融合していくことが重要です。

他方、医療や専門的支援を提供することも大切ですが、それらを前提としない介入や見守り、地域生活のなかでの緩やかなつながりを構築することはそれ以上に求められる時代となっています。これからも支援者の皆様とともに研鑽を積みながら、進化し続ける基幹相談支援センターの更なる発展に向けて全力を尽くして参りますので、よろしくお願い申し上げます。



木村 利信

株式会社典雅 プロジェクト推進室
able グループ グループマネージャー
able factory 施設長



基幹の研修*では、子どもたちが自分の心と身体について知り、生命・人権・人格の尊重を根底にした生き方の教育が性教育であるという捉えのもと支援者が集い共に学びました。研修には、放課後等デイサービスの従事者が多く参加されていましたが、本社にも放課後等デイサービスに通所する障害のある男児・女児の保護者からの相談が多く、つじつまが合いました。

私は、現在、就労継続支援B型の施設長ですが、10年程前までは、施設側も障害のある子の性についての理解は乏しく、テナガの商品に対して拒絶反応を示す職員もいました。今回の研修では、テナガの商品を手にとってもらい、直接、たくさんの質問をいただき、支援する職員の関心が高いことを実感しました。

TENGAヘルスケアでは、2019年にセイシル製作チーム**を立ち上げ、10代の性に関するトラブルの予防・解決、さらに性に対するポジティブな姿勢を育めるように、中学校、高校への出張授業も展開しています。文部科学省では、2019年にGIGAスクール構想を開始し、各家庭でもICT化が整備され、正確な情報入手しやすくなり、相談先も容易に見つけられるようになり、相談のハードルがとて下がったと感じています。

本社の新たな企業理念に、「[生きる]をよろこぶ世界へ」に、「ワクワク」する想いを込めて、人々が健やかに楽しく生きる「生」を包括的に取り扱う事業展開へと一新しています。

今後とも基幹とタッグを組んで、研修等に全面協力する所存です。

千田 孝一

国分寺市 福祉部 障害福祉課
事業推進係長



基幹と二人三脚での取組

基幹と障害福祉課はこれまで多くの取組を進めてきました。私が着任した5年前を振り返ると、随分と状況が改善されたかと自負しております。これは一重に、基幹の風通しの良さや障害福祉施策を推進することへの熱意によるものだと感じています。

まずは、相談支援事業所連絡会が軌道に乗り、活発な意見交換がなされ、相談支援専門員の事務負担を軽減すべく、国分寺様式の利用計画や計画相談に関する確認事項を作成するとともに、相談支援専門員の支援力向上に向けて、研修や事例勉強会、個別コンサルティング等を実施してきました。

次に、基幹と障害福祉課で共同運営する障害者地域自立支援協議会は、全体会及び3つの専門部会で当初スタートしましたが、現在では各専門部会で作業部会が設置され、年間の合計開催回数が50回を超えるほど活発に活動し、さまざまな取組を行っています。

そして、地域生活支援拠点の拡充については、障害者センター及びKOCO・ジャムの2箇所でも当初スタートしましたが、現在では相談支援事業所、短期入所事業所及びグループホーム（1箇所）が加わり、地域生活支援拠点に必要とされる5つの機能の充実が図られています。

以上の取組が地域のネットワークづくりに繋がっており、関係者で顔が見える関係が築かれ、更なる取組を実施できる好循環が生まれていると考えています。関係者の皆さまにおかれましては、いつも好意的に取組にご協力くださり、この場を借りて感謝申し上げます。

これからも、障害のある方が自分らしく生き生きと暮らせるように、皆さまのご意見に耳を傾け、基幹相談支援センターと二人三脚でさまざまな取組を進めてまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

*令和4年度国分寺市相談支援スキルアップ研修 ネットワーク研修Ⅲ(児童)「福祉職の性支援と多職種連携～今なぜ、学ぶ必要があるのか?～」開催日時：令和5年2月21日(cocobunjiプラザリオンホール)
**「セイシル 知ろう、話そう、性のモヤモヤ 10代のための性教育バイブル」(著：セイシル製作チーム) 2022年発行 | 株式会社 KADOKAWA

国分寺市障害者基幹相談支援センター 2022年度活動



2022
4
APR

- ・基幹独自のWebサイト“towaple.com”を開設した。(本誌 p.5 参照)
- ・とわぶるのクリアファイルを作成し、関係機関に配付した。
- ・市報 4月1日号に基幹 10周年と「とわぶる」の命名について報告を掲載した。(4月～6月)・市内 12カ所の相談支援事業所を訪問した。

5
MAY

- 〈5月～6月〉・市内 6カ所の地域包括支援センターを訪問し、地域課題等を共有した。
- ・事例勉強会「児童から成人へ相談支援事業所移行ケース①」を実施した。参加者 15名

6
JUN

- ・【スキルアップ研修Ⅰ(地域移行)】「地域支援機関と精神科病院との連携～連携事例を共有し、具体的な取組につなげよう～」(根岸病院、高月病院、井之頭病院)を実施した。参加者 39名
- ・相談支援専門員のための新任研修(支給決定基準、消費生活相談等)を実施した。参加者 13名
- ・(都内)基幹相談支援センター連絡会①

7
JUL

- 〈7月～9月〉・市内 7事業所の相談支援従事者研修、現任者研修の実習の対応をした。
- ・事例勉強会「児童から成人へ相談支援事業所移行ケース②」を実施した。参加者 14名



8
AUG

- ・事例勉強会「児童から成人へ相談支援事業所移行ケース③」を実施した。参加者 11名
- ・基幹設置 10周年「アニバーサリー レポート」を発行し、関係各位に配付した。

9
SEP

- ・相談支援専門員のためのブラッシュアップ研修(講師・角田みずぶ氏、「神経生理学の基礎」) 参加者 11名
- ・自立支援協議会の『ニュースレターNo.11』特集「ひろがる 相談支援専門員のつながり」より、誌面をリニューアルして、支援者に配付した。



10
OCT

- ・【スキルアップ研修Ⅱ(障害福祉 - 高齢福祉)】講評:石渡和実氏「障害福祉から介護保険へ～調整期間の有効活用を考える～」を実施した。参加者 42名
- ・法人内実践研究報告会にむけて、外部講師を招き勉強会を実施した。
- ・(都内)基幹相談支援センター連絡会②

11
NOV

- 〈11月～2月〉
- ・市内 8事業所の相談支援従事者研修、初任者研修の実習の対応をした。



12
DEC

- ・【支援者向け虐待防止研修】「事例から学ぶ虐待防止～虐待防止の取組は職員も救う～」を実施した。(153名、オンライン参加者含む)、2月研修の広報の一環で、「とわぶるクッキー」を製作して配付した。

2023
1
JAN

- ・相談支援専門員のためのブラッシュアップ研修「都立武蔵台学園特別支援教育コーディネーターとの交流」を実施した。参加者 14名



2
FEB

- ・【ネットワーク研修Ⅲ(障害児)】「福祉職の性支援と多職種連携～今なぜ、学ぶ必要があるのか～」を実施した。参加者 46名
- ・(都内)基幹相談支援センター連絡会③



3
MAR

- ・自立支援協議会の『ニュースレター No.12』特集「児童発達支援事業の紹介」を発行して、支援者に配付した。
- ・法人内実践研究報告会で、「基幹相談支援センター設置 10周年事業の振り返りと今後の展開について」を発表した。

2022年度活動実績							
相談業務件数	3,916件			内容別件数(重複あり)	4,023件		
支援方法:(合計 3,916件)							
訪問	来所相談	同行	電話	電子メール	会議	関係機関	その他
44	52	4	275	24	86	3,425	6

国分寺市障害者基幹相談支援センターのWeb サイトが「towaple」になりました。

専門相談

障害や難病のある方の暮らしの心配ごとの相談を受けます。
ご家族のほか、関係機関からの相談も受け付けています。



研修案内

基幹が主催する研修の開催日程、開催後の実施レポート等をご案内します。



自立支援協議会

障害者地域自立支援協議会の報告等をお届けします。



ダウンロード

『Anniversary Report』など、各種刊行物をダウンロードできます。



スペシャルコンテンツ

相談支援専門員をサポートするコンテンツをご活用いただけます。



国分寺市障害者基幹相談支援センターのWeb サイトは「とわぷる」で検索、または右のQRコードを読み取ることでご覧いただけます。



とわぷる

検索

<https://kokubunji-kikan-towaple.com/>

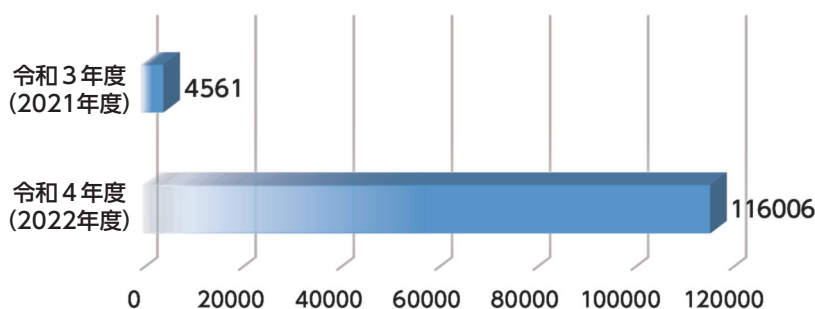


〈Webサイトの実績表〉

「towaple」にリニューアル後の成果

令和3年度、法人Webサイトのコンテンツの一部として基幹のWebページが存在しました。当時の閲覧件数は、全体の閲覧件数39,673件のおよそ11パーセントに当たる4,561件でした。令和4年度、基幹独自のWebサイトを開設、コンテンツの充実、広告・宣伝活動の結果、前年度の約25倍となる116,006件の閲覧件数を記録しました。

ページ閲覧数の変化



「国分寺市障害者基幹相談支援センター Annual Report 2022」

令和5年（2023年）7月31日発行

社会福祉法人 万葉の里 国分寺市障害者基幹相談支援センター

〒185-0002 東京都国分寺市東戸倉2-7-26 KOCO・ジャム 2階

電話：042-320-1300 FAX：042-313-8823 <https://kokubunji-kikan-towaple.com/>



*この冊子は、環境に優しい原材料を使用しています。

印刷：社会福祉法人 東京コロニー